

本時のねらい

・ALT へのビデオレター撮影で工夫して話せる。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

・自分の話す姿を録画することにより、何ができていて、どんなことが課題なのかを自分で認識する。（自己調整につなげる）
・1 回目のスピーチと 2 回目のスピーチを見比べ、自分の成長した点を自覚する。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・大型提示装置 ・Microsoft Edge（紹介したい町について調べるため） ・Teams（スピーチ動画を ALT の先生が見るために保存した）

本時の展開（全 8 時間計画：8 時間目）

| 学習の流れ | 主な学習活動と内容 | ICT 活用のポイント・工夫 |
|-------------|---|---|
| 導入 (5分) | 1 単語のペアワーク 2 ループリック(評価基準)の提示 3 話す際のポイントを確認(目線・声量・ジェスチャー) | ・テレビ画面にループリックを映す。 練習中にも提示し、生徒自身が確認することができる。 |
| 展開 (40分) | 4 自分の目標をふり返りシートに記入する。 5 紹介したい街について調べたことを英文にし、発表練習をする。 ①：前時までに調べた内容から発表できるものを選ぶ。 ②：英文を書く。(写真1) ③：発表練習を各自で行う。 6 タブレットで撮影する。 ①：班で正面の人の発表を撮影する。(写真2) 他の人は良いところをふり返りシートに記入する。 ②：録画した動画を自分で確認する。(写真3) ③：撮影データを teams に提出する。 ④：見つかった課題解決に向けた発表練習をする。 | ・発表者の撮影をする。 ・発表している自分の姿を見て、良かったところと課題を考える。 (もっとジェスチャーをつけるなど) ・teams のどの場所に提出するのかを提示する。 |
| まとめ (5分) | 7 振り返り ・撮影した自分の発表を見て良かったところと改善点 ・他の人の発表の上手なところ ・撮影後に、どんなところを工夫できたか、自分自身の変化を振り返る。 | ・次回の授業で、2 回目の撮影を行う。1 回目の発表と比較できるようにし、どんなところが上手になったか気づく。(よりよい発表につなげる) |

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



(写真1) オンライン辞書を活用しています。



(写真2) 動画の撮影をしています。



(写真3) 撮影した自分の姿を見て、できたことやこれからの課題を考えている様子です。

児童生徒の反応や変容

・生徒同士で撮影するのは初めての試みであった。何度も粘り強く話す練習をする姿が見られた。
・「先生、次回も撮影する時間ありますか？ チャレンジしたいです！」という生徒の声が多くなり、頑張りたい気持ちを育てるきっかけとなった。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

・相手意識や必然性を持たせるために、「ALT に日本の町を紹介するビデオレター撮影をする」という設定にしました。自分自身の話す動画を確認することで、自分の目標に対する達成度が客観的に分かるようになります。
・端末を活用し、たくさんの情報を入手し、必要なものを発表に取り入れるなど短時間でできることもポイントです。